

令和7年度第2回旭川市科学館協議会議事録

日時 令和8年3月27日（金曜日）午前10時30分から午前11時30分まで
 場所 旭川市科学館1階学習・研修室
 出席者
 （委員） 加藤委員、小嶋委員、谷越委員、津嶋委員、金谷委員、石田委員、
 奥村委員、高橋委員、ローゼエルマイヤー委員、渡辺委員
 （事務局） 岩崎科学館長、岳副館長、鷲見主査、川辺主査、大瀧主査、近藤主査
 会議の公開・非公開 公開
 傍聴者 なし
 会議資料
 資料1 令和8年度予算額について
 資料2 使用料・手数料改定について
 資料3 令和8年度新規事業「アイヌの星に関する文化についてプラネタ
 リウムを使って学習する来館学習支援」について

1 開会

2 議事

(1) 報告事項

- ・令和8年度予算額について

議長	事務局から説明をお願いします
事務局	(令和8年度の予算について資料1をもとに説明)
議長	委員の皆様、質問、意見はないか
委員	予算は議会を通過しているものか。
事務局	議会で可決している。
議長	用途など中身について、何か不明点はあるか。
委員	科学館補修費が0になっている。今後も0なのか。
事務局	令和7年度は照明等のLED化を行った。 市役所全体の補修について、他の施設をLED化していこうとする動きがあり、優先的に予算がついている。市の施設には老朽化している施設もあり、全体の中で優先順位をつけて予算化していく仕組みがある。全体の優先順位で、科学館の補修項目が下のほうになった状況。 令和9年度の予算計上では非常灯、避難誘導灯のLED化を考えている。次の年も0ということもなくはないが、科学館としては補修について考えている。

- ・使用料・手数料の改定について

議長	事務局から説明をお願いします。
事務局	(使用料・手数料について資料をもとに説明)
議長	質問、意見はあるか。
委員	私自身、出産し、子育て世代に入ったが、物価高騰が結構苦しく、おむつとかミルク代など、一律の負担増が少し厳しい状態。旭川市の物価高騰対策の給付金が7,000円あったが物価の値上げ分を考慮すると子育て世代では実質マイナスのような気がする。帯広市では、子育て世代には2万円給付されているようだ。子育て世代の優遇日や、子育て支援としての無料デー、多子世帯の高校生の免除、親にも割引の拡大などはできないか。
議長	アイディアについて即決はできないと思うが、見通しとしてはいかがか。
事務局	無料デーについては、子育て支援ということではないが、市民の日などで取り組んできている。子育て支援の部分で何か考えられないかということにつ

	<p>いては、小中学生を無料にしていることはベースにあると思う。物価高対策については市役所内で役割分担をして行っている部分もある。物価高対策とか、子育て支援で何ができるかということになると、科学館単体ではなく、子育て支援の他の部局と連携をして対応していくことになると思うので、相談をさせていただければと思う。</p>
議長	<p>他の方はいかがか。</p>
委員	<p>物価高などで厳しい状況は理解できる。科学館利用者が子ども、幼児を連れて来た人が多いことを考えると、そこを削るのはかなり難しいという反面、今の質問があった内容ももつとも、離れてしまったら、元も子もない。値上げは仕方ないと思う。パブリックコメントを見て思ったが、この値上げ率がどう生まれたのかを示すと納得してもらえないのではないか。多分、値上げ部分の負担感が、何故このような負担になるのかが疑問になる。計算の方法を公開した方が、納得できると思うがどうか。</p>
事務局	<p>パブリックコメントを実施した際に、考え方の部分は、資料で付いていたと思う。実際の費用を利用人数で割ってというところが基本になっているが、そのままでは高額になるので、上限を1.5倍としている経過がある。公でやっている事業、施設は基本的には赤字のところが多い。予算の管理費だけでも2億円を超えているが、入館料は1桁足りない。</p>
議長	<p>入館料収入は年間2,000万くらいということか。</p>
事務局	<p>はい。科学館の管理費を賄えるだけの入館料をもらうとなると、桁が変わるというようなことになる。今の料金が上がることは物価高で厳しいのは分かるが、市全体として、基本的に4年に1度見直しをし、その時に改めて経費を細かく項目設定してその総額と利用者の部分を計算して上限を1.5倍として計算している。</p>
委員	<p>計算方法や理由をポスターなどで掲示したら入場する時に来館者が納得できるのではないか。入った時に目にしたら、市も頑張ってくれていると思うのでは。</p>
事務局	<p>使用料の見直しの考え方を伝えるのは、見直しの時しかやっていないが、継続的ということとは、今後、考えていく部分かと感じた。担当部局にもそういう意見があったというのは伝えたいと思う。</p>
議長	<p>公開すると施設をあまり使わない方から、公共機関の存続問題という話になる。そこのバランスで市役所の方たちは考えていると思う。その他、意見はないか。</p>
委員	<p>アメリカで開催された国際的な研究の大会に行った高校生がいたが、開催地の科学館が観光地になっているらしく、入場料が高額だったらしい。大会に参加した学生は無料で入れるということで、その科学館を満喫してきた。子育て世代を大事にという意見ももつともだが、科学サイエンスに志す子どもたちや15歳から20歳ぐらいのこれからの担っていく世代にも、目を向けてほしいと感じる。</p>
事務局	<p>海外での科学館的な施設が観光施設的な扱いになっていて、ここ数年、旭川市科学館も観光客が増えている。インターネットでも外国の方の投稿が多く、関心があると感じている。去年、著名人の方が科学館に来館され、その時の感想がインターネット内のニュースで取り上げられた。そういったことも来館につながる部分かと思う。科学館の内容を充実させるためにも、地域の中学生、高校生とかが科学に関わるような活動の紹介として市内の高校について掲示するなどの取り組みも行った。市内で科学に関する活動があれば、相談いただければと思う。</p>

(2) 議題

- ・令和8年度新規事業「アイヌの星に関する文化についてプラネタリウムを使って学習する来館学習支援」について

議長	事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料にもとに説明)
委員	<p>昨年度、中学生をプラネタリウムで授業させてもらい、子どもたちがすごく喜んでいました。今年度も別の中学校でプラネタリウムを活用して授業した。アイヌの星の見方についても組み込み、子どもたちは興味深く授業に参加していた。アンケートを取ったところ、ほぼ100%楽しかったという結果。学習についても98%程度の生徒は学習になった。天気の良い日に星を見たい、科学館にまた来てみたいという回答も60%から70%ぐらい。</p> <p>体験した子どもたちが大人になって、自分の家族を連れて来てくれるようになったと思う。プラネタリウムは非常に学習効果が高いので、中学校としては、地球と宇宙という単元の学習なので、アイヌについて中心にはできないところもあるが、ドームでいろんな映像を使ってアイヌの方たちの生活などを紹介したり、差し込むだけでも、北海道の歴史にも関心を持つという期待もある。そこに地球の運動と星の運動がリンクしていくと、より豊かな情操教育も含めた学びといった期待も膨らむ。これまで小学校も含めた様々な教員に声をかけ、教員が授業を見に来てもらい、多くの教員から授業をしてみたいと聞いている。バスが無償で出るのであればやってみようという教員はいるので、旭川市教育研究会の理科部でも案内したい。北海道の理科教育研究会で旭川がプラネタリウムを子どもたちに無償で提供して、学習効果が上がっていることを関心高く見られている。こういった事業でより多くの子供たちが使えるような環境が整えられてきていることを会議で報告できるかと思う。</p>
事務局	<p>令和8年度はアイヌ施策推進交付金の活用を想定して、授業の中に組み込むというより、明確にアイヌ文化についてのコンテンツとして切り離し、こちらで解説をするような組み立てにする。プラスアルファとして理科の授業でも使ってもらえるようにする。授業の方は、学校の先生がイメージされている内容で活用してもらい、アイヌについてのコンテンツ部分は科学館が実施することを考えている。</p> <p>生活の様子といったものもあるといいといったご意見についても、検討させていただければと思う。</p>
委員	<p>良い取り組みだと思う。アイヌの生活と結びつくということはとても大きい。その時に起きていた天文現象も交えながら、プラネタリウムのLED化で、より美しく、いろいろと表示できるということなので、今後も進めてもらいたいと思う。子どもたちに興味を持たせるためには先生方にも興味を持ってもらわなくてはいけない。先生方を対象に研修会といったものができるだけ早期に行うと、学校としても年度計画の中に入れていくのに役立つのではないかなと思う。</p>
委員	<p>私もアイヌ文化について、科学を普及する科学館で扱う点に魅力を感じている。文化を扱う時、難しいことがあると思う。下手をすると単なる見世物のようになってしまうので注意が必要。</p> <p>プログラムを誰が作るかが重要で、例えば、アイヌの人たちを最初からプロジェクトに入れて、その文化を生き方として持っている人たちと作ることで誰も傷つけない形で示したい内容を示せると思う。アメリカとかでもよく行っていて、そこで言われるのが最初から巻き込むこと。例えば旭川市にいる</p>

	アイヌの方を入れることで軋轢がないものが作れると思う。 他に難しい点として、示し方によっては、科学の方が優れている、と見えること。アイヌの文化を理科のパッケージとして示したために、伝えたいことと真逆になって伝わる可能性もある。どういう示し方をするのかが、かなり重要なので扱う内容だけじゃなくて、扱い方を慎重にした方が後々誤解を生まないと思う。
事務局	取り組む際に考えていかなければいけない点だと思う。実際に博物館では展示と、学習支援の授業を実施をしていて、川村カ子トアイヌ記念館にも行く内容になっている。具体的なことについては博物館とも相談をしながら検討したいと思う。
委員	旭川に焦点をあてて、抽象的なアイヌの方々ではなく、旭川に住んでいたアイヌの方々はどうだったかといった風にする面白と思う。
委員	令和8年度がうまくいけば令和9年度もということもあるので、今回の中学校での成果を踏まえて、小学校でもできないかと思う。
事務局	次年度も継続をしてというのはできると思うが、別な側面としてアイヌ施策推進交付金を活用して事業構築をしているので、交付金がなくなると事業がなくなるという可能性がある。 中学生から小学生まで範囲を拡大することはあると思う。まず令和8年度に成功させて、9年度に拡大できるように取り組んでいきたい。
議長	他に意見はあるか。
委員	素晴らしい取り組みだと思う。課題が多いとは思いますが、旭川だからという背景がある取り組みが一個でも増えてほしい。
委員	事前と事後でアンケートを取り、効果検証して、理科教育関係の学会などで発表して、単に面白いコンテンツというわけじゃなく、意味があることを付け加えると、それを読んだ学術団体とかの方とアプローチができると思う。発展性もあると思うので、思いだけでなく本当に子どもたちの成長に意味があるということを、実証的に継承されたいと思う。

(3) その他

議長	その他、事務局からはあるか。
事務局	特にない。
議長	委員の方からはあるか。
委員	科学館を、利用させていただいたが、そこで感じたことをお話ししたい。 大きなイベントは、来場者や、成果がマスコミに取り上げられているが、目に見えない成果とか取り組みも重要だと思う。例えば、天文の星を見る会に参加した際に、参加者もすごく感謝して喜ぶ姿を見て、地道なことだが大切な取り組みを続けていると感じる。他の取り組みやイベントでも、大きく取り上げられてはいないが見えない取り組みとか成果を私たちも評価していかなくちゃいけないと思う。先日の月食の際に駅の近くで天体望遠鏡を使って月の写真を撮っていたところに外国人観光客がたくさん集まってきて一緒に星の観察をして写真撮影した。旭川市民の方も興味を持って見に来ていた。興味関心は多くの人たちが持っていると感じる。そう考えると科学館の未来は明るいと思う。
議長	他の委員からはあるか。(なし) それでは以上で終了する。